

## <神経心理学的検査とは？>

もの忘れや生活に支障を来している原因が認知症によるものなのかどうかを、知的機能や認知機能、記憶、実行機能などについての神経心理学的検査をもちいて調べます。

検査の多くは、口頭での質問や文字や図形、絵などを書いていただくものです。おおよそ1時間程度かかりますが、場合によっては1時間30分ほどかかることもあります。検査は静かな部屋で、臨床心理士と患者さんとの1対1で行われます。

※以下の検査を組み合わせて実施します。

### (1)知能検査

- ・ミニメンタルステート検査(MMSE)／長谷川式簡易痴呆スケール改訂版 (HDS-R)  
認知症のスクリーニングとして広く利用されている検査です。
- ・コース立方体検査  
積木を使った検査です。視空間認知や知能を評価します。
- ・レーヴン色彩マトリックス検査  
カラーの図柄をみて、欠如部分に入るピースを選択する検査です。  
複雑な動作を必要とせず、知能を評価することのできる検査です。

### (2)記憶検査

- ・三宅式記銘力検査  
二つの対になった言葉を覚える検査で、聴覚性記憶を評価します。
- ・ベントン視覚記銘力検査  
図形を見て描く検査で、視覚性記憶を評価します。
- ・ウェクスラー記憶検査(WMS-R)  
総合的に記憶評価をする検査です。  
時間がかかり、複雑なため、より精査が必要な場合に実施します。

### (3)前頭葉機能・遂行機能検査

- ・前頭葉機能検査(FAB)  
簡便に前頭葉機能を測定できる6つの項目からなる検査です

### (4)人格検査その他

- ・うつ性自己評価尺度 (SDS)  
情意状態を知るスクリーニングテストとして使用します。